

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスここから（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月		2026年 1月
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 12月		2026年 1月
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長期休暇中に博物館や美術館へ出向くなど、施設外での活動に積極的に取り組んでおり、子どもたちの興味を広げるきっかけや公共の場でのマナーなどを学ぶ機会を提供しています。	ロッカーや下駄箱に写真を貼って子どもが自分で荷物管理ができるようにしたり、おもちゃを視覚化して自分から発信する機会を広げたりするなど、子どもの自主性を促す環境構造化を工夫しています。	お出かけに関しても子どもたちが自主性を発揮できるよう、おでかけの企画作りに子どもたちの意見を取り入れるなど、気持ちを表明し実現する体験ができればよいと思う。
2	保護者様からは「よく観ていただいている」「相談しやすく迅速に対応してもらえる」といった声が寄せられており、今後も相談しやすい関係性を構築し、安心して事業所を利用してもらいたいと考えています。	法定基準を上回る人員配置を行い、極力子どもの様子に目が届く体制を整えています。安全管理を第一に考えながらも、子どもたちのチャレンジをしっかり見守っていきたくと考えています。	非常勤職員を含めて、全職員が子どもの支援ポイントをしっかり把握して支援にあたるよう、支援前の打合せを充実させる仕組み作りが必要です。
3	卒業生の保護者による談話会、親子参加型プログラム、関係者による講和など、保護者様にとって学びの得られる保護者会を開催したいと考えています。保護者同士の交流の機会としても、積極的に活用していただければと思います。	「苦情」に至る前の「ちょっと気になること」を積極的に拾い上げるよう周知しており、保護者からの意見を支援の質の向上につなげるPDCAサイクルを意識的に回しています。相談しやすく、何かあったときに意見を言いやすい事業所でありたいと考えています。	保護者会について、きょうだい児も楽しく参加できるような会を企画したり、私たちができるきょうだい児へのサポートを多様化させていきたいと考えています。もし興味がある方がいれば、学校課題のボランティア活動に活用していただくなどもいままです事例がありました。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎業務との兼ね合いや勤務時間の都合により、特に非常勤職員が支援終了後の打ち合わせ（フィードバック）に参加できない場面があります。これにより、子どもの様子や気づきを全員でリアルタイムに共有しきれない点が弱みとなっています。	特定の曜日に人員が不足することや、支援終了後の清掃・送迎業務が重なることで、全職員が集まって振り返りを行う時間を確保しにくいことが主な要因です。	フィードバックに参加してもらうことが一番望ましいですが、時間的な制約があるため、フィードバックで挙がった要点のみを非常勤職員に伝えられるよう、AIの活用も含めて情報の整理を迅速化する工夫を試みています。
2	他の放デイや相談員、学校等関係機関との情報共有があまり行われていません。	特に不調がない児童については保護者とのやり取りがメインとなり、関係機関との「顔の見える関係」作りが後回しになっている側面があります。	相談支援事業所や他事業所、学校等との情報共有について、負担の大きい範囲でこちらからできるアクションを考えていく必要があります。情報提供の範囲や方法などについても具体的にしていかなければなりません。
3	40名に及ぶ利用児の個別支援計画の要点を、全職員が日々の支援の中で常に把握し続けることが困難な状況にあります。	個別支援計画などの重要情報がファイル等に保管されているものの、日々の忙しい業務の中でパッと確認できるような表記（曜日ごとの一覧表など）になっていないため、情報の浸透に時間がかかっています。	40名の個別支援計画の要点を、職員がパッと見て把握できる「一覧表」や「気づきメモ」を共有する仕組みを作ることが必要です。現在、共有の迅速化を目指して外部サービスを導入し運用を始めています。